

創作オペレッタの実践報告 2010

古屋 祥子 沢登芙美子 高野 牧子

はじめに

本学人間形成学科では、開学以来、4年生を対象に授業「総合表現演習」を開講している。今年度もこの成果を発表する場として、7月15日、学生制作・出演の創作オペレッタ「おかしのくにのおかしなはなし」を、甲府市内の幼稚園・保育園に通う園児約153名を招いて上演した。

本稿では、昨年度の実践報告に引き続き、この授業において学生たちが実際に行ったオペレッタ制作と、この公演に関わる準備等の内容をまとめ、現場の状況の把握と今後の問題点を検討することを目的とする。

I 「総合表現演習」の概要

1、授業目的

本科に入学した学生が、1年から3年になるまでの3年間に学んできたあらゆる分野での学習¹を、横断的かつ総合的に捉える実践。特に、音楽、造形、身体表現を中心とした表現領域の内容に、総合芸術の視点を持って表現活動を行うことを目的とした授業である。この機会に学生たちは「子どもにとっての表現とは何か」という基本的な考察をし、幼児の発達段階に見合った内容の表現を創作する。

2、授業内容

テーマ設定、脚本制作、舞台づくり（演出、出演、音響、照明、衣装、舞台美術、ダンスなど）、公演のための諸準備を、学生が分担し、総括的に取り組み、オペレッタとして発表する。全ての制作・進行は学生が主体的に行い、教員はアドバイス・補助に徹する。授業実施は、2010年前期、2

時間続き180分15コマ。履修者は、人間形成学科4年生27名。

II 作品づくりの実際

1、制作過程

次項の表は制作過程を分担ごとにまとめた結果である。また、その様子の一部を写真で紹介する。



リーダー会議

分担内容の決定や各チームの問題点・作業進行状況等を確認する



ダンス振付説明と音楽合わせ

作曲した音楽にダンスを振付け、全員に紹介している様子

(所 属)

人間福祉学部 人間形成学科

1 保育内容（言葉・人間関係・身体表現・造形表現・音楽表現・演劇表現・健康・環境）、乳幼児心理学、乳幼児教育論、教育基礎論、対象理解、乳幼児と遊び、保育とジェンダー、伴奏法、音文化演習、歌唱演習、絵本制作、造形演習、教育心理学、幼児音楽、教育方法論、教育課程論、乳児保育、小児保健、保育学、保育学実習、障害児保育などの授業

	脚本・演出	美術 (大道具・衣装)	ダンス	音楽・照明
日付\担当	黒部、金子、菅野、鈴木、武藤	遠藤、太田、青木、伊藤、斉藤、長岩、中村、生田目、深沢、藤田、溝口、宮下	矢崎、落合、長岡、三宅、渡辺	久保田、加瀬、加藤、中川、山崎
4/15	テーマ・モチーフ決め、担当・役割決め→今後の予定を話し合う			
4/22	第1回脚本チーム集まり シナリオ作り（登場人物、設定、話の大枠を考える）	講堂に行き、舞台の寸法測定、背景→デザイン決め	パレードを見てダンスの研究	照明、スポットライトの使用方法確認 楽器でファンファーレを作る
4/28	第1稿をもとにおおまかな流れを再度確認 キャラの確定			
4/30	第2稿の再考、修正 昼休みに全体で脚本の流れなどを確認			
5/6	テクニカルリハ（7/10,11）の講堂申請 役決め、歌詞作り	お菓子の城イメージ図完成 保育学 実習室にバミリをして練習場作り	音を聞きダンスを練る	曲作り（4曲完成） 練習
5/13	歌詞決め 脚本のストーリー決定 時間計測 読み合わせ	場面ごとのレイアウト確定	キャラクター紹介のダンス創作 と伝授	曲作り、曲決め（団子、アイス、仲直りのダンス曲、オープニング、ラストダンス）
5/20	第3稿の台本印刷 台本の推敲 ゲネ（7/13）の講堂申請 読み合わせ	冷蔵庫、食器棚、ドア、お菓子の工場、 時計台を模造紙に下書き 衣装（絵コンテ作成） 小道具作成		曲作り練習
5/27	クイズ3つ決定 半立ち稽古（出はけの確認、台本の話し合い）	ステージバックの背景作成 衣装作成（時間外活動開始）		チョコ、家来の曲完成
6/3	立ち稽古	制作		曲のアレンジ推敲 練習
6/10	脚本推敲（ラスト、動き方） 講堂で立ち稽古	お菓子のお城の色塗り・衣装制作		曲のアレンジ推敲 練習
6/17	プレゼント作り 渉外（総務に相談） 第4稿配布 ご案内パンフレット完成・園に配布	衣装制作 大道具制作	ラストのダンス創作	曲のアレンジ推敲 練習
6/24	入場門作り 立ち稽古（衣装付き）	机、水道ガス台、仮完成	ラストのダンス創作 前半伝授	曲完成 練習
6/28	シーン練習			
6/29	シーン練習			
6/30	シーン練習			
7/1	子どもたちへのプレゼント（プレスレット）を作成 照明プラン役割の打ち合わせ 通し稽古	制作	ラストのダンス前半・後半伝授	通し練習に合わせて演奏 受付装飾作成
7/2	シーン練習 ダンス練習			
7/3	シーン練習 ダンス練習			
7/4	シーン練習 ダンス練習			
7/5	シーン練習 ダンス練習			
7/6	シーン練習			
7/7	シーン練習			
7/8	通し稽古 ビデオ鑑賞 シーン練習	舞台セット 通し準備	通し準備	通し準備
7/9	シーン確認			
7/10	シーン・ダンス練習 通し稽古			
7/11	テクニカルリハーサル（音響、照明きかけ・レベルの確認） 通し稽古			
7/12	確認 リハーサル			
7/13	リハーサル 注意点の指摘	モビール制作完成 壊れた大道具の修復 最終調整 取り付け 設置 会場の装飾	リハーサル 立ち位置等最終確認	リハーサル 音響・照明最終調整
7/14	最終リハーサル、本番			



舞台壁画作成



舞台衣装作成



受付装飾作成



舞台稽古前 発声練習



個別歌唱練習



衣装一例

舞台美術をバックに団子たち



舞台稽古

VTRに撮り振り返るなどで演技を客観視し、改良点を出し合う

2、作品の内容

- ①脚本：テーマを受けて、登場人物、ストーリーを決定。対象年齢を考慮し台本作成。校正（4回）。資料3 台本参照（詳しくは2010年度卒業論文 黒部翔太著「幼児のための演劇実践」）
- ②音楽：登場人物ごとにキャラクターに合った音楽を作詞・作曲し、演技者に歌唱指導。場面に合った挿入曲の作成。ダンス音楽の作曲。楽器編成の決定。編曲。本番での実演。図1, 本番VTR参照（詳しくは2010年度卒業論文 加瀬詩織著「曲作りへの試みーオペレッタの音楽構造を通してー」）
- ③美術（大道具）：壁画・舞台装置（回転型）・会場受付装飾・会場入り口装飾門の作成、舞台飾り付け。トータルデザインを考えつつ、場面転換方法、低コストを考慮。写真参照
- ④美術（衣装）：登場人物ごとにキャラクターに合った衣装を考案し、作成。低コストに抑えつつ使用する素材を選択し、演技者の体系や要望に合わせる。写真参照
- ⑤ダンス：登場人物ごとにキャラクターに合ったダンスを創作し、演技者に指導。全員で一緒に踊るダンスを考案し、歌やせりふに合わせ調整、指導。

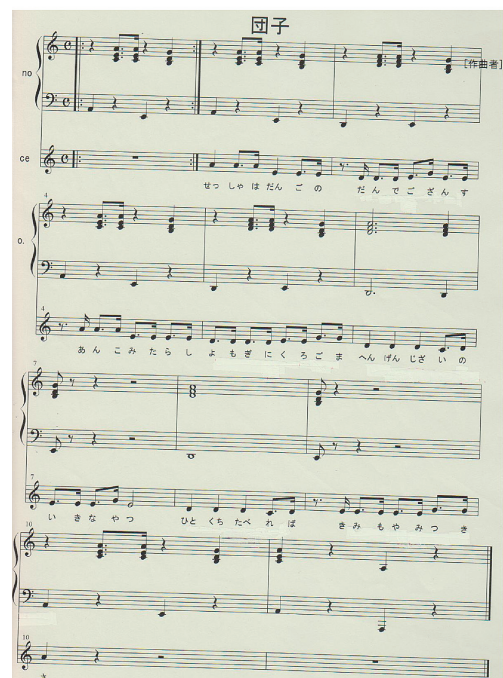


図1 作成した楽曲の一部
(団子のテーマソング楽譜)



ドーナツ型会場入り口装飾門



ケーキ型 会場受付装飾

練習 VTR, 本番 VTR 参照。

- ⑥演出：脚本チームのメンバーが中心となり細かな調整を繰り返し行った。練習 VTR, 本番 VTR 参照。(詳しくは 2010 年度卒業論文 黒部翔太著「幼児のための演劇実践」)

3、上演スケジュール

10 時半開場

会場には音楽をかけ、園児を席に誘導
(案内、受け付けは形成 3 年生に依頼)

11 時開演

手遊び・お約束 (10 分)

上演 (35 分)

退場 (5 分、キャストが舞台から降りて誘導
役をする)

11 時 45 分閉演



手遊び・お約束
オペレッタの上演前に、導入・注意事項伝達のため、オリジナルの手遊びを披露。続けて子どもたちもいっしょに手遊びをする。

Ⅲ 授業成果

1、アンケート調査

- ① 実施方法：来場者（園児は除く）に公演前、受付で用紙を手渡し、退場口に回収ボックスを設ける。このとき回収できなかったもののために、教務に受付窓口を公演翌日まで設置する。園の保育士の先生には、後日郵送で返信してもらう。教員には、古屋のメールボックスに投函してもらう。
- ② 回収内訳：有効回答数の内訳は、本学人間形成学科 1～3 年生 50 名、卒業生・教員 3 名、甲府市内幼稚園・保育園の先生 3 名、一般 14 名であった。

③ 結果（詳細は表 1、2 を参照）

- ・ 本学学生・卒業生・教員からの回答では、ほとんどの項目において「とてもよい」が選ばれ、平均約 95% となった。
- ・ 一般からの回答では、ほとんどの項目において「とてもよい」が選ばれ、平均約 82% となった。
- ・ 保育園の先生方からの回答では「とてもよい」の回答率が平均約 57%、「よい」の回答率が平均約 33% となる項目がほとんどであったが、テーマが伝わったかどうかを尋ねる項目で「どちらともいえない」の回答が 33% となった。今後はこの幼児期の子どもたちに内容を伝えるという問題に関して、指導を工夫したい。

2、学生の振り返りから

公演終了後、各役割に分かれて、この取り組みにおける振り返りを行った。主に、良かった点、反省点、効果、後輩へのアドバイスを出し合われたが、全体に共通した内容と、分担ごとの細かな内容に分けて記載する。

【共通】

① 良かった点

- ・ みんなと一緒に作り上げた
- ・ みんなが意見を言え、それを反映することができた
- ・ 係りのメンバーが協力し合えた
- ・ みんな仲良くなった
- ・ ほめられてよかった

② 反省点

- ・ 他チームとの連携不足
- ・ 情報共有不足
- ・ 全体把握不足

【ダンス】

① 良かった点

- ・ キャラクターらしさの強調
- ・ 難しすぎず、みんなが踊れるダンス
- ・ わき役も目立てるような構成
- ・ 音楽と一緒に、子どもに楽しい感じが伝わった（一緒に踊りだす場面があった）
- ・ 子どもが参加できる場面をつくったことで盛り上がった

② 反省点

- ・ 衣装への対応
- ・ 歌を歌うシーンへの考慮
- ・ 子どもと踊るシーンの検討

【脚本・演出】

① 良かった点

・全体の把握 ・練習の流れを指示し、活動がスムーズにできた ・テーマを伝えることができた

② 反省点

・仕事を引き受けすぎて時間外活動が当たり前になっていた ・台本作りに時間がかかり衣装係に迷惑をかけた ・子どもの行動・反応が読めない部分があった

【美術（大道具）】

① 良かった点

・ほぼ計画通りにできた ・壁画は大変だったけれど達成感があった ・布の効果的活用 ・場面転換の工夫

② 反省点

・立体物の補強 ・遠くからの会場効果（薄い色、細い縁取りは目立たない） ・仕事の効率化

【美術（衣装）】良かった点

① 良かった点

・コスト削減 ・早めの制作

【音楽】

① 良かった点

・生演奏（子どもも興味を示していた） ・いろいろな楽器の使用（視覚的にも子どもに影響があった。眠っていた楽器を使用できた） ・オリジナル曲 ・早めの取り組み ・熱意をもって取り組めた ・工夫を凝らした（キャラクターに合った曲作り、場面に合った曲作り、効果音作り）

おわりに

授業が始まった当初は、去年の卒業生による創作オペレッタ公演が好評であったこともあり、それと同レベルに仕上げられるのかというプレッシャーや、自分たちでできるのかという不安を多くの学生が持っている様子であった。だが、オペレッタの制作に不可欠である、クラスメイトみんなが協力・分担し、ゼロから少しずつまとめ、改良するという作業を進めていく過程で、取り組み

に熱中していく様子が徐々に見えてきた。時に作業の分担の問題等で少々もめる場面もあったようだが、逆に、協力し合うことの重要性や、議論や作業を通して学び合う楽しさを強く実感することに繋がったように思える。これに今回の授業趣旨である学生の主体性を尊重した授業の進め方が、学生の責任感とやる気の活性剤となり、そこからさらに前向きに物事を考えるようになるなど、楽しく作業を進めることに繋がった。就職活動などの忙しい時期に重なっていたにもかかわらず自然に授業外活動をするなど、主体的に意欲をもって取り組む姿勢が見受けられた。

アンケート結果や来場者の声からも、発表当日の舞台の仕上がりは、学生が制作から上演まで全て主体的に取り組んで作り上げたものとしては、とても良い出来であったと言えるだろう。実際の公演当日は会場全体が活気に満ちていて、子どもたちは約40分のステージを終始飽きることなく、とても楽しんでいただいていた様子であった。舞台に集中し声をあげたり、舞台に話しかけたりと感情移入する子どもも多く見受けられた。学生たちも、子どもたちを目の前にした本番の舞台では、練習やリハーサル時に比べ、どのシーンにおいてもアドリブや子どもたちとの掛け合いが入るなど、子どもたちの反応を肌で感じ取りながら演技が伸びる様子がうかがえた。感動の場面を想定していた個所で笑いが起こるなどといった予想していなかった子どもの反応に対し即興的な演技を入れるなど、演者が臨機応変に対処していた。照明や音響のタイミング、舞台美術による場面転換など、練習通りスムーズに進められた上に、もともと個々が持ち合わせている能力の発揮が追加され、練習をはるかに上回る舞台となった。また、全てをオリジナル曲・生演奏でまとめた音楽による会場効果は大きく、これにより常に緊張感を伴った心地よい全体感が演出されていた。舞台袖での様々な楽器演奏も、メインである舞台上よりも演奏者側を凝視している子どももいたほど、興味深い、凝った曲・効果音づくりができたといえる。舞台後半の見せ場はセリフのないダンスであったが、役者全員による体を使った楽しさの表現が会場全体を覆

い、つられて踊りだす子どももいた。

この創造的な時間と空間を、演者・スタッフ・観客のみんなで共有できたことで、学生は「人の心に働きかけることができる」という表現の持つ奥深さを体感する、とても良い機会を得たと思われる。「感動を共有できるもの」を、自分たちで協力し合い、いちから作り上げたという実体験は、学生たちに大きな達成感と充実感をもたらすこととなり、学生たちの自信を形成することにも繋がったと感じられる。

半期ごとに大学で行われる「学生たちによる授業評価アンケート」の結果にも、学生の授業に対する関心が示された。「総合表現演習」の「満足度」の項目は平均値を大幅に上回る 4.91 (5.0 満点中) という高評価であった。さらに、「自主的に授業以外に関連した学習をした」や「学生が発言しやすい雰囲気をつくり、参加を促していた」などの項目も平均を大きく上回る結果であった。このことから、学生たちは、自らの手で作り上げたことを実感し、その成功に対する達成感と充実感を大いに得たと読み取ることができるだろう。

今回、学生たちは一連の経験を通し、仲間同士の協力や学び合いの楽しさ、試行錯誤ののちの進歩、子どもたちに感動を与えられる喜びなど、得たものはそれぞれにあったと感じる。これが、全ての履修生の将来において有意義に活用されることを期待したい。

今後の課題としては、オペレッタ制作においてより大きな感動体験を創造するために、芸術性の向上と、対象者となる幼児に向けた表現のあり方の追求が挙げられる。音楽、ダンス、美術などの各芸術分野、また幼児に対する教育分野において理解を深めていくことと同時に、学生の見聞を広め、受け取る側の視点を把握するためにもプロフェッショナルによる舞台を鑑賞する機会を設けることを検討していきたい。さらに、具体的な改良を要する点には、公演会場である講堂の音響効果、照明機材設備、大道具・衣装などの制作費の確保などが挙げられる。学生たちの自由な表現を再現するための環境づくりを充実させていきたい。

表1 アンケート結果 (学内学生)

学内学生 設問	5=とてもよい 4=よい 3=どちらともいえない 2=工夫が必要 1=もっと工夫を															
	回答 (1年生)					回答 (2年生)						回答 (3年生)				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	未	5	4	3	2	1
Q: オペレッタの内容はいかがでしたか?	18	2	0	0	0	13	1	0	0	0	0	15	1	0	0	0
Q: 楽しめましたか?	20	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0
Q: テーマは伝わりましたか?	15	5	0	0	0	12	2	0	0	0	0	12	3	1	0	0
Q: キャストの演技は?	20	0	0	0	0	13	1	0	0	0	0	15	1	0	0	0
Q: 美術 (衣装、大道具など) は?	20	0	0	0	0	12	2	0	0	0	0	16	0	0	0	0
Q: 音楽 (歌や効果音など) は?	19	1	0	0	0	14	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0
Q: ダンスは?	20	0	0	0	0	12	1	0	0	0	1	16	0	0	0	0
Q: 自由に感想をお書きください。																
以下抜粋 【1年】 1つ1つのキャラクターができていて、わかりやすかったです。すてきなステージで、自分たちもこんなすごいステージができればいいなと憧れました。 演技も大きいフリでわかりやすかったし、歌も声もよく聞こえました。																

一人ひとりの演技やダンスにも熱意が感じられ、話に引き込まれました。
音楽も生演奏でとても素敵でした。衣装が可愛かったです。最初の手遊びでお菓子を意識できたのでお話に入りやすかったです。 踊りがみんな楽しそうに踊っていて見ているこっちまで楽しくなってきちゃいました。
【2年】 最初から最後までとても楽しめました。 皆さんの演技が上手でストーリーに入りやすかったです。 ハラハラ、ドキドキもあってとても楽しく見ているだけで笑顔になるようなものでした。
ストーリーがとても面白くて楽しめました。間にクイズがあるので子どもたちも飽きずにずっと楽しめる作品だなあと感じました。 見ているこっちまでとても楽しくなりました。お菓子を買ったらみんなで楽しく食べようと思います。 音楽がCDやテープとは違って臨場感が伝わってきた。自分たちも2年後頑張りたいです。
【3年】 子どもたちが発する言葉に対応していてアドリブ力がすごいと尊敬しました。 お菓子をテーマにしたお話で、子どもたちの身近にあるものなので親しみやすくとても楽しかった。 プレスレットを使って子どもたちも参加できるように促す構成もとても良かったなと思いました。とても素敵で素晴らしいオペレッタでした。 自己紹介のシーンが皆可愛くて良かったです。おかしな国になった途端布がいっぱいびっくりしました。 子どもだけでなく私自身もとても楽しかった。生演奏が格好良かったです。

表2 アンケート結果（学生以外）

学生以外	5= とてもよい 4=よい 3=どちらともいえない 2=工夫が必要 1=もっと工夫を															
設問	回答（卒業生、教員） 回答数 3					回答（園の先生） 回答数 3						回答（一般） 回答数 14				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	未	5	4	3	2	1
Q: オペレッタの内容はいかがでしたか？	3	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	12	2	0	0	0
Q: 楽しめましたか？	3	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	13	1	0	0	0
Q: テーマは伝わりましたか？	3	0	0	0	0	1	2	1	0	0	1	9	4	0	1	0
Q: キャストの演技は？	3	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	11	2	0	1	0
Q: 美術（衣装、大道具など）は？	3	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	12	0	1	1	0
Q: 音楽（歌や効果音など）は？	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	12	1	1	0	0
Q: ダンスは？	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	12	1	1	0	0
Q: 自由に感想をお書きください。																
以下抜粋																
【卒業生・教員】 「お菓子」というかわいくて子どもが大好きなものが題材で楽しんで見ることができて良かったと思います。私も園に帰って参考にさせてもらいたいです。																
【保育士の先生】 子どもたちもとても楽しみにしていたので、オペレッタを鑑賞することが出来て良かったです。子どもたちも一緒に手遊びや劇の中でも参加することで楽しく見ることが出来ました。参加型のオペレッタは共感することが出来た良いなあと感じました。子どもたちも「仲間のしるし」の腕輪を頂いて嬉しそうでした。効果音でいろいろな楽器などをたくさん使用しているのが興味深く感じました。スタッフのみなさま、ありがとうございました。																
【一般】 久しぶりに楽しませて頂きました。舞台と客席が一体となり、子どもたちもオペレッタの世界に入っていたように見受けられました。 とても完成度が高く、楽しかったです。 全体的に世界観が統一され、そこでまた個々人のキャラクターがきちんと成立していた点が素晴らしいと思います。																

資料1 2010年7月15日付け学長ブログ『人のふり見て…』

今日、恒例の人間福祉学部人間形成学科学生によるオペレッタが上演されました。原作・脚本・作曲・演奏・照明・音響・美術・演出まで全て学生たちの創作で、しかもすばらしい力作でした。今年も会場には、おちいさいお客さま約200人が鑑賞してくださいました。付き添いの先生方には心からお礼を申し上げます。(中略) ともかく今年のオペレッタも大変素晴らしかった。コミッ

トした学生たちに拍手喝采を贈ります。最後に、実は、そっと見に来てくださっていた権威あるお客さま、山梨県民文化ホールの山田支配人さん、尾澤事業部長や加藤事業部副部長さんたちからも激賞していただきましたことを追記しておきましょう。

伊藤 洋

資料2

2010年山日新聞



資料3 台本「おかしくなくにおかしなはなし」

登場人物 (キャスト):

女の子 (メイ) 落合美幸

アイス メイン (アイ) 深沢由香

サブ 中村菜美 長岡文枝

王 藤田彩香

キャンディ メイン (キャン) 鈴木絢香

サブ 斉藤唯 遠藤真由

家来 黒部翔太 渡部彩香

団子 メイン (団) 宮下由美

サブ 三宅香名 矢崎ゆい

母 生田目侑香

チョコ メイン (チョコ) 武藤美樹

サブ 金子皓子 伊藤桃子

音響: 久保田隆範 加瀬詩織 加藤亜沙子 中川歩美 山崎裕美

照明・手遊び: 青木風香 太田恵未 菅野みな子 長岩春佳 溝口志穂

総監督: 黒部翔太

①前説

明るい音楽 緞帳が上がると、お母さんが台所で



おやつ準備をしている

女の子「ただいまーっ」

舞台袖から元気良く女の子が入ってくる。

母「おかえりー」

女の子「おかあさん今日のおやつなあにっ？あ、ホットケーキだ。」

女の子おやつに手を出そうとするが母に止められる

母「こら、おやつの前にちゃんと手を洗いなさい」

女の子「はい」

女の子、手を洗う 母、おやつを用意をすすめる

母「おいしそうでしょ。さあ、おやつにしましょ」

女の子「はい」

母・女の子「いただきまーす」

お母さんと女の子二人で（ホットケーキ）を食べ始める 突然、電話の音が聞こえる

母「電話だ。お母さんちょっとでてくるわね。」

女の子「はーい」

母、電話をとりにいく。女の子、ホットケーキを食べ終わり、眠くなる。

女の子「なんだか眠くなってきちゃった」

②お菓子の国

舞台照明 F.O（フェードアウト） 暗転になり次第場転 シャカシャカやチンなどお菓子の調理の音が聞こえてくる。それに合わせて少しずつ声が聞こえる。スポット 客席の前の端を照らす



チョコ「たすけてー」

アイ「もう王様のためにお菓子を作るのはたくさんー」

団「うー」

キャン「だれか。あたしたちをたすけて」

女の子「えっ、だれ？どうしたの？」

キャン「ねえ、今の声・・・」

チョコ「僕たちの声が届いたんだ」

アイ「あなた、あたしたちを助けてくれない？」

女の子「えっ」

うすぐらい舞台、ほんやり周りは不思議な世界に変わっている。瀕死のお菓子たちがいる

女の子「えっ、ちょっと大丈夫？何があったの？」

しっかりして。えっ、ここはどこ？」

団「ここは・・・お菓子の国でござる・・・」

女の子「おかしのくに？」

瀕死のお菓子立ち上がる。

お菓子「そう！ここはお菓子の国。」

（ミュージカル風）音楽

お菓子 ♪ここはおかしなお菓子の国♪

女の子 お菓子の国？

チョコ チョコ

団 団子

アイ アイス

キャン キャンディ



お菓子 ♪ 作ったお菓子は仲良く分けて のんびり平和に過ごしてました。♪

団 ところが・・・

舞台照明変化 轟音が響く 細身の王様と家来、イメージ音楽とともに登場。王様 お菓子の味見をしていく

王 ♪私は王様。お菓子は誰にも渡さん！すべてわしのもの。お菓子大好き。さあ、皆のもの、早くお菓子をつくるのだ♪ 踊りながら自己紹介

王様と家来 はける

お菓子 ♪ 新しい王様は お菓子が大好き。でも、わがままで 欲張りで 怒りっぽい 僕らのお菓子をとっていき ずーっとお菓子をつくらされ もうヘトヘト お願いだから誰か助けてー♪

団 と

お菓子 いうわけさ。

ため息をつくお菓子たち

女の子「ひどい。そんな意地悪な王がいるなんて。わかったわ。私も早くうちに帰りたいけどおかあさん、いつもいってたもの。困っている人がいたら助けてあげなさいって」

アイス「ほんとに！？」

キャンディ「やったー」

チョコ「あ、まずは自己紹介しとかなきゃ」

団「いいでござんすね。じゃ、せっしやから。
ミュージックスタート」

音楽 踊りながら自己紹介(団子・キャンディ・
チョコ・アイス自己紹介)

団子たち♪拙者団子の団でござんす。あんこ、み
たらし、よもぎに黒ゴマ、変幻自在の粋なやつ。
ひと串食べたら君もやみつきさ♪

キャン 「きゃーだんさま。見ててください。」

キャンディーたち ♪あたしはキャンデのキャン
よ。ほらみて、このかわいさを、カラフルで
キュートでプリティー。みんなも食べたくなっ
ちゃうでしょ♪

(団子に絡んでいく)

アイ 「まったくはしたないわね。あんたなんか、
団が好きになるはずないじゃない」

キャン「ちょっと、だんさまを呼び捨てにしない
でくれる」

チョコ「まあまあ、喧嘩しないで」

チョコたち ♪おいらはチョコレートのチョコ
さ。甘くてお口に入れたらとろけちゃう！
いつもいつもいつもいつもいつもちょこまかし
てる

毎日ちょこちょこ作ってます チョコー♪

チョコ 「ほら、最後は君の番だよ」

アイスたち ♪私はアイスのアイ。食べるととっ
ても冷たいの。早く食べないと、とけちゃう。
白い肌におしゃれなコーン♪

アイ 「キャンディなんかよりずっといい」
音楽が終わり、キャンディ、アイスにらみ合う。
団子は呆れて女の子のほうへ

団 「きみの名前は？」

女の子♪私の名前はメイ！元気いっぱいぱっちり
お目々。ちょっとお茶目な女の子♪ 音楽 踊
りながら自己紹介 「よろしくね」

キャン 「でも、一体どうすればいいの？」

女の子「それなら、あなたたちの気持ちを王様に
聞いてもらえばいいんじゃない。そうすれば
きっと王様だってわかってくれるよ。」

チョコ「やだよー。」

団 「メイちゃんがいうならせっしや、いくでござんす。」

キャン 「だんさまがいうなら。」

アイ 「そうね。行きましょ。」

だだをこねているチョコをおいてお菓子と女の子はける

チョコ「まってよー」



③お城

家来、双眼鏡を持って登場

家来 「大変だ。このことをお菓子たちが着く前に王様に伝えなければ。」

家来「♪私は家来、王様の家来。この国一番の物知り、強くてカッコよく、素敵な男♪音楽 踊りながら自己紹介
王様一、王様。」

王、お菓子を食べながら登場

王「なんだ、騒々しい」

家来「お、王様。今日も見事にお太りになられて。素敵でございます。違うのでございます。大変なのです。実はかくかくしかじかでございますて・・・」

王「なに？お菓子のやつらめ。いいか、なんとしてでもお菓子たちを追い返すのだ」

家来「かしこまりました」

家来 急ぎ、はける 王、食べながらはける
お菓子・女の子は一致団結し、歌を歌いながら登場。

お菓子「♪お菓子のお城へさあ行こう(レッツゴー) 王様のところへはなしを聞いてもらいに行こう♪」

チョコ「王様一。今日はお話がありました」

キャン「王様—」

女の子「王様、いませんか？」



家来「(姿を現して) ここからは通さんぞ」

女の子「だれ？」

団「あの人は王様の家来さ」

チョコ「いつも、ぼくらが作ったお菓子を
っていくんだ(怯える)」

キャン「そこを通して王様に会わせて」

アイ「王様に話があるの」

家来「駄目だ。王様にはお前たちを追い払うよ
うに言われた。街に戻って早くお菓子を作れ」

キャン「(確かに私たちはお菓子しか作れないけ
ど・・・)」

チョコ「やっぱり今のうちに帰った方がいいん
じゃない」

あわてるお菓子たち

女の子「・・・ねえ、家来さんはお菓子作れるの？」

家来「私はお菓子など作らん。お菓子を王様に
届けるのが仕事だ」

女の子「えっ、それだけ？」

家来「何を言う。お菓子など作らなくてもお菓
子のことならなんでも知っているのだ・・・
そうだ。お前たちを通してやろう」

お菓子「えっ、ほんとに！」

家来「ただし、条件がある。これからこの物知
りで頭の良い私がお菓子に関するクイズを出
す。それに答えて見事正解すればここを通して
やろう。もし、間違えたらそこのお前も一緒に
一生王様のためにお菓子を作ってもらおう」

女の子(お菓子たちと相談)「・・・いいわ。約束よ」

家来「問題。いすはいすでも冷たいいすなあ
に？」

シンキングタイムに音楽を流し、観客に答える
ように呼び掛ける

女の子・お菓子・観客「せーの」「アイス！」

家来「正解！なかなかやるな。ではもう一問」

キャン「正解したのに」

女の子「もう一問ってどういうこと？」



家来「誰が一問といった。さっきのはほんの
ウォーミングアップだ。さて、ではもう一問。
茶色の身体に金や銀の服をきた甘いものなあー
んだ」

女の子・お菓子・観客「せーの」「チョコ！」

家来、問題をだすがどれも子どもたちの協力で
お菓子と女の子正解する。



女の子「さあ、もう答えたんだからいい加減に通
してよ」

団「そうだ。拙者たちだってみんなと協力すれ
ばできるんだ」

家来「まだまだこれから。次はすごい難しい
ぞ」

王「何をやっておる」

家来「その声は・・・」

王 音楽とともに登場。

チョコ 「王様だー」

キャン 「王様、実はお願いがあってやってきました」

アイ 「私たちは王様のために今までお菓子をたくさん作ってきました」

団 「しかし、もう拙者たちは疲れきっています」

キャン 「もう、お菓子を独り占めにするのはやめていただけませんか？」

王様、ムスツとした表情でたたずみ、家来をにらみつける。

王 「お前はいつまでも何を手こずっておる。」

家来 「も、も、申し訳ございません。しかし、なんだか頭の良いやつが多いようでして。」

王 「言い訳をするな（家来を蹴る）」

家来 「ひえー」

キャン 「王様、お願いします」

アイ 「私たちはもう寝ないでお菓子を作るのがつらいのです」

王様 「なにをいうか。わしは王だ。国のすべてがわしのものなのだ。お菓子もお前たちも。王に逆らうやつらなどいらん」

王様 ポッキーの剣を抜く

女の子 「なによ。ただのポッキーじゃない」

チョコ 「何言ってるんだ。あれはこの国に伝わるポッキーソード。あれにきられたら大変だ」

キャン 「みんな、逃げよう」

アイ 「せっかくここまで来たのに」

団 「早く」

お菓子たち逃げようとするが女の子が止めに入る

女の子 「ちょっとみんな逃げちゃっていいの。逃げたってなにもはじまらないよ。王様も話を聞いて」

王様 「うるさーい」

女の子、跳ねとばされて倒れこむ

お菓子 「メイちゃん！」

お菓子 「・・・」

王 「わしの国でわしに命令するな」

アイ 「私、行くわ」

アイス、武器を握りしめ、王に向かおうとする

団 自分が行くとばかりにアイスの前に立つ
「待つでござる。拙者が」

王 「なんだ。その反抗的な態度は」



団 「・・・やー」 王に向かっていくがはじかれる。

お菓子 「だん！」「だんさま！」

アイ 「よくも、だんを！」 王に向かっていくがはじかれる

怯えているチョコとキャンディ

王 「おまえらはどうした？ かかってこないのか。」
チョコとキャンディ目を合わせ

キャン 「行くしかないわ」 王に向かっていくがはじかれる

残されたチョコ、ためらいながら王に向かっていくがはじかれる

王 「ははは。久しぶりに動いたら腹が減ってきたな。お、そろそろおやつの時間だ」

王、お菓子を食べ始める

団 「一体どうすれば・・・」

女の子 「・・・みんなで力を合わせるの。みんなの力が合わされば王様だって倒せる。」

お菓子たち、女の子のもとへ集まる。立ち上がり合体の型になる

女の子 「王様」

王様 「なんだ。まだ刃向かうつもりか。わしの食事の邪魔をするならただじゃおかんぞ」

女の子 「・・・話を聞いて」

王様 「いやじゃー」

王様、剣をふる 女の子とお菓子たち受け止める

チョコ 「パワーが足りないよ」

キャン 「このままじゃやられちゃう」

女の子「会場にいるみんな。聞こえる？王様を倒すにはまだまだパワーが足りないみたいなの。みんながもっているその（あめ玉）を上にあげてパワーをちょうだい」

会場にいる人（あめ玉）を上にあげる

王「ぐぐ、なんだ。急に力が強くなったぞ」



団「あともう少し・・・」

女の子「みんなもっと手をふって。そうすればもっと力が集まるはず」

会場にいる人、手を振ってパワーをおくる

王「そ、そんなばかな。わしが、わしが・・・」

効果音 王、その場に倒れ込む お菓子喜び合う 女の子、王のもとへ

女の子「大丈夫？」

お菓子びっくりしたように耳を傾ける

女の子「どうしてお菓子を独り占めしようとするの？」

王「・・・（泣きだす）だってお菓子がおいしいから・・・とまらなかったんだよ。」

女の子「そうなんだ。でも一人で食べるよりみんなで食べた方がおいしいよ」



王「・・・みんなで？」

女の子「そう、お菓子はとってもおいしいけど、みんなで食べるともっと楽しくっておいしいの」

王「そうなのか。でも・・・」

王、お菓子たちの方を見る

チョコ「王様、僕たちと一緒に食べようよ」

団「しかたないでござんすね」

キャン「だんさまがいうなら」

アイ「あんたそればかり」

女の子「（笑う）それじゃ、王様も入れてみんなでお菓子パーティしない？」

王「わしを許してくれるのか」

女の子「もう、悪いことしない？」

王「（うなづく）ごめんなさい」

チョコ「やったー。お菓子パーティだ」

お菓子「ミュージック スタート！」

お菓子の国の人々のダンス

中盤で 女の子「ねえ、みんなで食べれば楽しいでしょ」

王「ああ、楽しくておいしい」

さらに音楽盛り上がる



④家に戻る

ポージング 暗転 母「メイ？メイ？起きなさい。こんなところで寝ると風邪引くわよ」

徐々に舞台が明るくなる

女の子「お・・・かあさん？おかあさん。ねえ聞いて。私、お菓子の国に行ってきたの」

母「楽しい夢を見ていたようでよかったわ。どんなところだったの？」

女の子「へへ、それはね・・・」

音楽（ミュージカル風で使った音楽）C.I（カットイン） 全員登場し、軽めに踊る。

踊り止まって女の子前に出てくる 音楽 L.D（レベルダウン）

女の子「とっても、とってもおかしい国だったんだ。」

音楽盛り上がり、（緞帳下りる） 《終幕》